

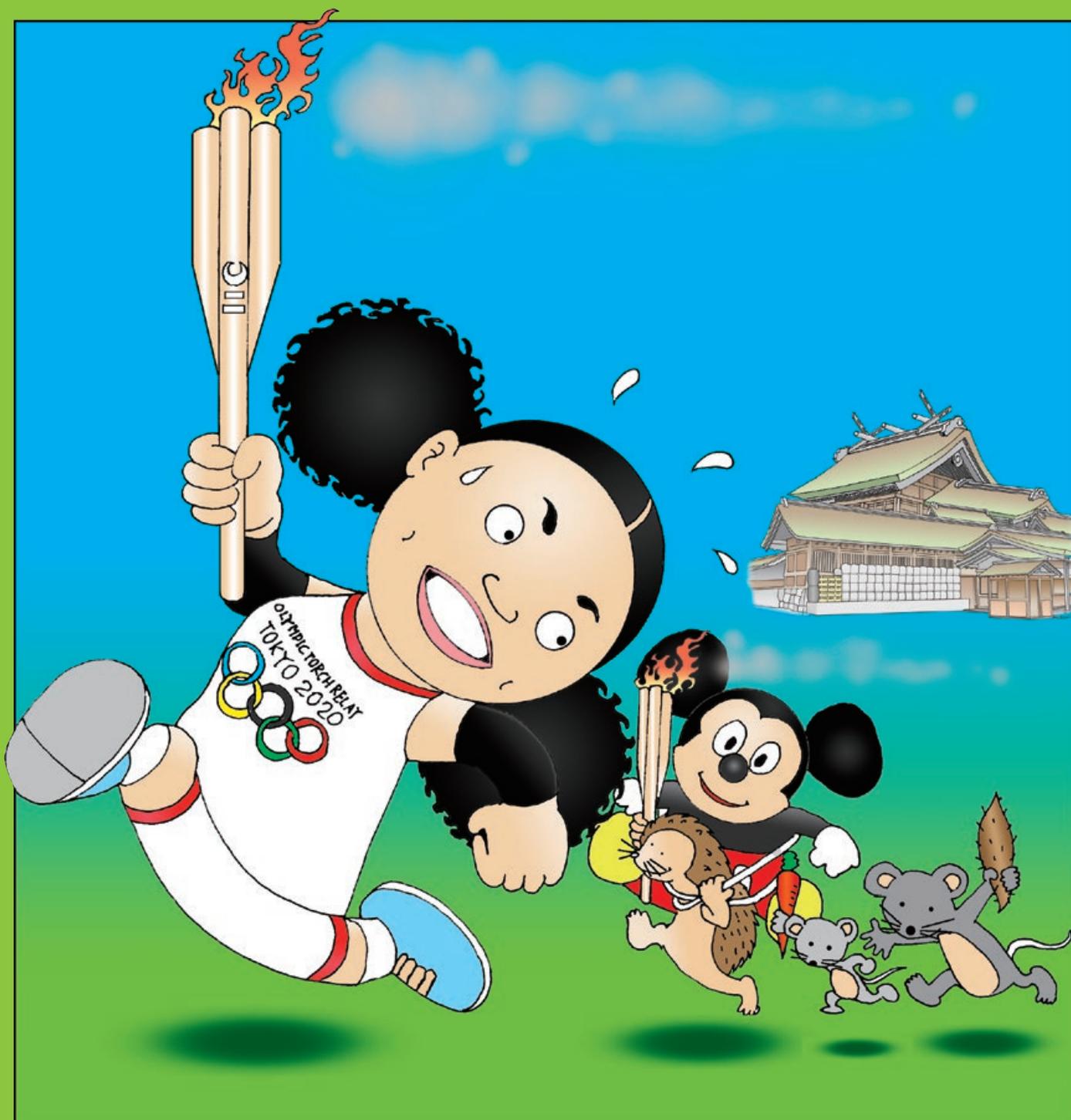
# 建設会報 いずも



No.133

2020年

新春号



## 表紙の言葉



今年は東京五輪の年、国内の聖火リレーは47都道府県を巡り、島根県内では5月16、17日、1964年の東京五輪で走った道路や、地域を代表する観光名所など14市町村の総距離34.3キロメートルを回る予定です。

お笑いコンビ「ニッチェ」の江上敬子さんら44人のランナーが複数人一組でそれぞれのコースを走ります。

ルートは各市町村で工夫を凝らし、出雲市内では出雲大社正面鳥居前の勢溜から、神門通りを通過して浜山公園陸上競技場までの3.2キロメートルを走る計画です。

新緑の出雲路を走る聖火ランナーの応援に、大勢の見物人で賑わいそうです。

えと文 / 渡部良治

# Contents

- 
- 01 巻頭言 中筋 豊通〔一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会会長〕
- 
- 03 新年のご挨拶 大作 和弘〔国土交通省出雲河川事務所長〕
- 
- 04 波多江 賢二〔厚生労働省出雲労働基準監督署長〕
- 
- 05 荒薦 章二〔出雲警察署長〕
- 
- 06 高田 英治〔出雲県土整備事務所長〕
- 
- 07 令和元年度 優良工事等表彰 表彰一覧
- 
- 09 優良工事知事表彰を受賞して 山岡 広美〔今岡工業(株)〕
- 
- 10 森脇 健太〔(有)嘉村建設〕
- 
- 11 社会貢献活動 全国建設業協会会長 表彰 (株)トガノ建設
- 
- 13 山陰中央新報社地域開発賞 渡部 良治〔出雲歌舞伎「むらくも座」座長〕
- 
- 15 年男の抱負 今岡 余一良〔今岡工業(株)〕
- 
- 16 山崎 育男〔(有)山崎組〕
- 
- 17 門脇 徹〔(株)フクダ〕
- 
- 18 全国建設業労働災害防止大会に参加して 中尾 一男〔(株)内藤組〕
- 
- 19 経営研修会2019 佐藤 良一〔社会保険労務士「佐藤社会保険労務士事務所」〕
- 
- 21 インターンシップ体験談
- 
- 24 建設業魅力発信事業〈土木の日 記念イベント2019〉
- 
- 25 編集後記 福田 美樹〔ヒカワ工業(株)〕
-

令和2年 年頭所感

## 魅力ある建設業協会・スタートに

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会

会長 中筋 豊通



明けましておめでとうございます。

令和の時代を迎えての、初めての年頭のご挨拶を申し上げます。

天皇陛下が退位され、平成の時代が終わり、新たな令和の時代が幕を開けました。新天皇は「即位後朝見<sup>ちようけん</sup>の儀」に臨み、『常に国民を思い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓い、国民の幸せと国の一層の発展、そして世界の平和を切に希望します』と、お言葉を述べられました。

また、安倍首相は「春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが明日への希望と共に、それぞれの花を大きく咲かせることが出来る、そうした日本でありたいとの願いを込め、決定した」と談話を発表しました。

新しい令和の時代が、良い時代になるよう、それぞれが努力したいものです。

ところで、昨年は、米中の経済摩擦、イギリスのEU離脱問題、北朝鮮の非核化、隣国の韓国との徴用工問題などなど、世界中が問題を抱えています。そんな中、日本では、相変わらず、数々の地震、梅雨前線による大雨や台風被害が発生しました。

# 新元号「令和」

新天皇即位の5月1日から

典拠は万葉集

令和



# 令和 始動

今年、干支のスタートとなる子年です。我々建設業界も原点に戻り、地域のインフラの整備やメンテナンス等の担い手であると同時に、地域経済・雇用を抱え、災害時には、最前線で地域社会の安全・安心の確保を担う地域の守り手として、国民生活や社会経済を支える大きな役割を担っていかねばなりません。

しかしながら、若者の入職が極端に減っている現実を見ると、責務を全うすることが出来ません。その為には若者が望む「働き方改革」を早急に実践しなければなりません。また、地域間格差、企業間格差が生じ、地域建設業の経営状況は依然として厳しい状況ですが、労働環境、処遇改善にも全力を尽くしていかねばなりません。

出雲地区会員企業の皆様、皆が一丸となって、新3K「給与・休暇・希望」に取り組み、建設業界のイメージ一新を図り、魅力ある建設業協会のスタートになるよう、頑張ってください。

ありがとうございました。

国土交通省中国地方整備局  
出雲河川事務所

所長 大作 和弘



明けましておめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。日頃より国土交通行政、とりわけ河川行政の推進にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

斐伊川水系では、いわゆる治水事業の3点セットのうち、志津見ダム、尾原ダム、斐伊川放水路がすでに運用を開始し、これまでに斐伊川放水路への分流を8回行うなど、その水位低減効果を発揮しています。また、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会」を再構築するため、国、県、市が一体となり行う減災のための取組を実施しており、多機関連携型タイムラインが完成し運用を開始しております。

引き続き、地域の皆様のご理解を頂きつつ、残る大橋川改修及び中海・宍道湖の湖岸堤整備等のハード整備を着実に進捗させるとともに、想定最大規模の降雨によるハザードマップの作成、防災教育等のソフト対策を関係者と連携・協力して一体的・計画的に進め、安心・安全な地域づくりに貢献して参ります。

さらに、斐伊川流域の地域振興を目指して、尾原ダムと志津見ダムの水源地域ビジョンの推進、水辺に賑わいを生み出して持続的な取り組みとして定着させていく「ミズベリ<sup>えにし</sup>ング縁」の一員としての活動や、ガンやハクチョウ等多くの大型水鳥類が飛来し、コウノトリのヒナが3年連続で誕生する豊かな水辺環境を保全・再生するとともに、観光・農業と連携して地域の活性化を目指す生態系ネットワーク形成などの様々な取り組みを関係者と連携しながら、引き続き実施して参ります。

地元建設業の皆さまは地域の安全・安心を守り、地域経済を支える「砦」です。地域防災力の向上を図る上では、災害時の即応性はもとより、長大な河川堤防の管理等、平常時における河川の維持管理が重要です。地域を守るためには、我々、河川管理者である出雲河川事務所はもちろん、地元精通した建設業に携わる皆様の力が必要不可欠です。

昨年11月には、島根県出雲地区建設業協会、しまね建設産業イメージアップ女子会、島根県出雲県土整備事務所、出雲市等の皆様方とともに、建設業の担い手確保を目的の一つとして、斐伊川放水路周辺を会場に5回目となる「土木の日記念イベント」を開催しました。当日は多くの方々にご来場いただき、建設機械、災害対策機械の展示と操縦体験、斐伊川放水路バスツアーやTEC-FORCE活動の紹介等様々な企画を通じて、建設業のイメージアップにもつながったものと思います。

こうした取組も含め、建設業協会の皆様方には女性技術者の活用、若手技術者の育成などを通じた安全・安心な地域づくり、地域の活性化に寄与するご活躍を期待しております。

最後に、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

厚生労働省島根労働局  
出雲労働基準監督署

## 署長 波多江 賢二



明けましておめでとうございます。

新年を迎え、心からお慶び申し上げます。本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

貴協会並びに会員の皆様方におかれましては、労働基準行政へのご理解、ご協力、労働災害防止活動へのご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は働き方改革関連法である改正労働基準法が施行され、時間外労働の上限規制や年次有給休暇の年5日の指定等が導入されました。

建設事業に係る時間外労働の上限規制の適用は、4年後の2024年からとなっておりますが、この間、2023年には中小企業の月60時間超の残業の割増賃金の引き上げが適用となります。

人手不足が深刻化している中、新たな対応に苦慮されているかと心中お察ししますが、働き方改革は、少子高齢化に伴う生産年齢人口減少や働く方々のニーズの多様化などの課題に対応するために、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境を作ることで、働く方の置かれた個々の事情に応じ多様な働き方を選択できる社会を実現することで、働く人一人ひとりがより良い将来の展望を持てるようにすることを目指しておりますので、ご理解のほどお願いします。

なお、昨年4月から施行となった年次有給休暇の年5日の指定については、建設業及び中小企業においても猶予措置はなく、既に適用されており、今後、各労働者の年次有給休暇の基準日が順次到来することとなり、5日未消化の労働者については基準日までに消化するため指定が必要となるケースも出て来ると思われますが、これからは、全ての事業場において、年次有給休暇は最低年5日取得するのが当たり前の世の中になりますので、対応方よろしくお願いいたします。

時間外労働の上限規制につきましては、施行日までに対応していただけるよう、説明会や戸別訪問などで周知を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

労働災害の発生状況につきましては、昨年の当署管内の休業4日以上 の件数は、11月末日までで203件で一昨年比では3件増加。死亡災害は、一昨年は0件であったところ、昨年は1名の尊い命が失われています。(建設業では、皆様方のご尽力のおかげで死亡災害は発生していません)

この死亡災害は、施設の管理業務を行う労働者が、普段は立ち入らない地下ピット内に入り、一人で配管の修理作業を行っている時に被災した事故でありましたが、リスクアセスメントを実施していれば防げたのではないかと惜しまれる限りです。

被災者のご冥福をお祈りするとともに、事業場におけるリスクアセスメントの定着を図るべく、周知啓発を強化してまいります。

災害の型で多いのは、全産業では転倒災害で、全体の約25%、建設業では墜落災害で、全体の約30%を占めており、今年も事故の型に注視した対策をお願いしていくこととなります。

被災者の年齢構成では、高齢者の割合が高く、50歳以上の災害が半数、60歳以上の災害が約3割を占める状況にあります。

働き方改革においても、高齢者が活躍できる就労環境の整備は重要であり、加齢に伴う身体、精神機能の低下による労働災害の発生リスク低減の対策にも取り組んでいただけると幸いです。

結びに、貴協会並びに会員の皆様方の益々のご発展、ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

島根県出雲警察署

署長 荒薦 章二



明けましておめでとうございます。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

会長をはじめ皆様方には、平素から暴力団排除活動はもとより、警察行政の各般にわたり、深いご理解・ご支援を賜っておりますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の島根県内及び当署管内の治安情勢ですが、治安のバロメーターと言われます刑法犯認知件数は、ピーク時の3分の1以下の数字を維持しており、数値的には良い傾向に向かっていますが、安来署での小学生の死亡事案など女性・子供が被害となる事案をはじめ、暴力団の関与が窺われる特殊詐欺被害が後をたたない状況にあります。

全国の暴力団情勢に目を向けてみますと、10年前に比べ構成員等（含む準構成員）は半減しているものの、六代目山口組から離反して出来た神戸山口組、さらには神戸山口組から分裂した任侠山口組の3団体による対立抗争が激化し、殺人事件に発展するなどなど市民生活を脅かしている状況にあり、警察では市民生活の安全確保に向け、全国警察を挙げて集中取締りを展開し、反社会的勢力の弱体化に努めているところです。

島根県内の暴力団は、3団体が事務所を構え、構成員等約90名となっておりますが、3団体とも鳥取県内にある六代目山口組二次団体の傘下にあります。

暴力団は、常に資金源の確保・獲得のために動いております。

全国的には特殊詐欺への関与の他、多数の飲食店等からみかじめ料名目で現金を集めるなどの伝統的な資金源獲得活動はもとより、建設関係では、業者を上手く取り込んで個人の会費名目での現金徴収、公共工事への派遣事業など巧妙な資金獲得活動を展開しております。

こうした情勢の中、ここ出雲市においては、皆様のご協力により長年にわたって、暴力団事務所の進出を許しておりません。

これは協会の皆様をはじめ、市民の皆様、出雲市などの関係機関、各企業の方々などが警察と一体になって、暴力団排除活動に取り組んでいただいている結果であります。また、平成29年7月には、出雲市繁華街対策協議会（今市町及び周辺地域）を立ち上げ、より一層の繁華街対策にも乗りだしているところです。

皆様方には、引き続き、

**「暴力団追放三ない運動+1」**

- 暴力団を利用しない
- 暴力団を恐れない
- 暴力団に金を出さない
- 暴力団と交際しない

の実践をお願いします。

当署では、協会の皆様方と緊密な連携を図りつつ、署員一同、暴力団等反社会的勢力を根絶するための活動を強力に推進してまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。

島根県出雲県土整備事務所

所長 高田 英治



新年明けましておめでとうございます。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には、出雲県土整備事務所が取り組む社会基盤の整備や施設の維持管理に対し、格別のご理解とご協力をいただいております、深く感謝申し上げます。

昨年は、元号が「令和」になるという節目の年でありました。

ここでまず「平成」から当事務所が推し進めてきました主要事業のうち、間もなく完了、完成の時期を迎えるものについてご紹介します。

そのひとつは、平成25年に完成した斐伊川放水路に関連する内水対策事業についてです。平成23年度から10年間の集中投資を地域にお約束し新内藤川、赤川、塩冶赤川及び午頭川の改修事業を行ってまいりました。令和2年度が10年目最終年度であります。地権者の皆様、地域の皆様にご協力をいただき、暫定改修ではありますが、概ね予定の通りに進捗しています。

二つ目は、平成17年度に事業着手し、25年度に工事着手しました一般県道矢尾今市線大塚工区についてです。今年中に供用開始できる見込みとなりました。平成26年3月に供用開始した一般国道431号東林木バイパスの整備効果を高め、市街地部の渋滞緩和に大きく寄与するものと考えております。

一方、新しく始める事業もございます。

神門通りの街路事業については、平成28年2月に第一期が完了しました。今年から第二期の工事を始めます。第二期においては「宇賀橋」の架け替えを行うこととしております。まずは、仮橋を含めた迂回路の工事に着手します。いろいろな形の交通規制の繰り返しになり、ご不便、ご迷惑をお掛けすることとなりますが、地域のさらなる活性化のため、皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

この他、主要地方道出雲三刀屋線などの幹線道路整備、物流強化のため出雲河下港整備、農業基盤強化のため山王川整備などを引き続き推進してまいります。そして、生活道路の整備や橋梁の耐震化・長寿命化、道路の落石対策にも取り組み、圏域の安全・安心の確保につながる社会基盤の充実を図ってまいります。今後も皆様の強力なお力添えをよろしくお願いいたします。

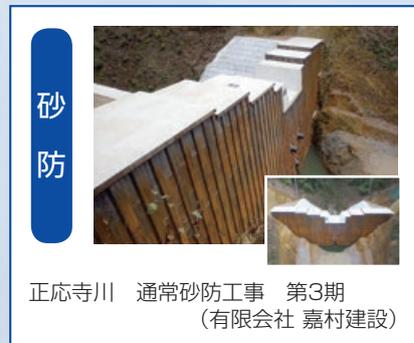
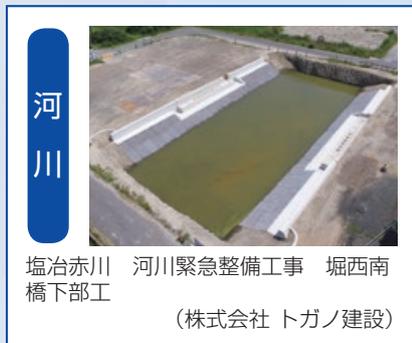
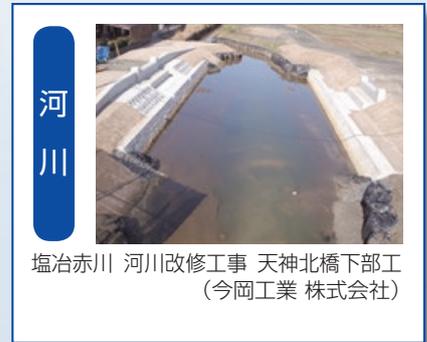
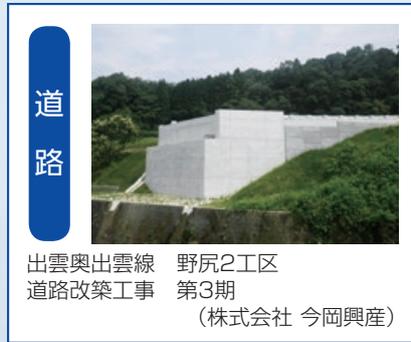
2020年において、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の力強いご発展と会員の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

何卒、令和2年もよろしくお願いいたします。

# 令和元年度（平成30年度完了） 島根県優良工事等知事表彰

## ◇優秀建設技術者表彰（優良工事知事表彰）

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	矢尾今市線 大塚工区 道路改築工事 第13期	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	糸川 賢一
		出雲奥出雲線 野尻2工区 道路改築工事 第3期	株式会社 今岡興産 代表取締役 今岡 裕統	藤原 敏彦
	河川	塩冶赤川 河川改修工事 天神北橋下部工	今岡工業 株式会社 代表取締役 今岡 余一良	山岡 広美
		塩冶赤川 河川緊急整備工事 堀西南橋下部工	株式会社 トガノ建設 代表取締役 桐野 直宏	荒木 眞信
	砂防	正応寺川 通常砂防工事 第3期	有限会社 嘉村建設 代表取締役 嘉村 栄二	小畑 稔



# 島根県東部県民センター所長表彰

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
建築	建築	島根県立中央病院 ハイブリッド手術室整備 建築工事	株式会社 浜村建設 代表取締役 浜村 一雄	金山 真樹



# 令和元年度（平成30年度完了） 島根県優良工事等所長表彰

## ◇優良工事表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工種	工事名	会社名/代表者	主任技術者又は 監理技術者	
土木	道路	出雲平田線 川跡工区 道路改築工事 第3期	株式会社 ダイニ 代表取締役 安達 稔	園山 敏秀	
		出雲三刀屋線 上塩冶工区 道路改築工事 第7期	今岡工業 株式会社 代表取締役 今岡 余一良	伊藤 雅巳	
		斐川一畑大社線 地合工区 道路改築工事 第6期	株式会社 倉橋工務店 代表取締役 倉橋 一喜	金坂 篤	
		出雲三刀屋線 上塩冶工区 道路改築工事 第4期	ヒロシ 株式会社 代表取締役 扇子 勇次	小谷 訓	
	河川	九景川 河川緊急整備工事 第1期	山陰建設工業 株式会社 代表取締役 磯田 真左一	西 武志	
		湊原海岸 海岸災害復旧工事 29災1号、426号	有限会社 間壁組 代表取締役 間壁和弘	落合 訓志	
		赤川 河川維持修繕工事	出雲土建 株式会社 代表取締役 石飛 裕司	露梨 克明	
	港湾 空港	河下港 港湾改修工事 第10期	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	名原 勇司	
	農林 水産	森林 土木	林道開設事業 宮本聖谷線第1工区 道路工事	株式会社 安井組 代表取締役 安井 和広	高野 輝久
			復旧治山事業 川北上2工区 溪間工事	株式会社 岩崎建設 代表取締役 岩崎 哲也	竹田 清美
自然災害防止事業 畑谷山腹工事			株式会社 フクダ 代表取締役 長岡 秀治	穴戸 克己	

## ◇優良業務表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工事名	会社名/代表者	主任技術者又は 監理技術者
農林水産設計	災害関連緊急治山事業 小弁堂 測量設計等業務	島建コンサルタント 株式会社 代表取締役 多久和 豊	成相 知

## ◇特別表彰（所長表彰）

表彰理由	会社名/代表者
長年の道路の維持管理業務における功績が顕著であるため	山陰建設工業 株式会社 代表取締役 磯田 真左一
長年の海岸の維持管理業務における功績が顕著であるため	有限会社 ナギラ建工 代表取締役 柳樂 明



## 優良工事知事表彰を受賞して



今岡工業(株)

山岡 広美

この度は、島根県優秀建設技術者として表彰して頂いたことに、大変嬉しく思っております。到底自分ひとりの力では何も出来るはずもなく現場スタッフ皆の協力があって受賞したものと理解しております。

それでは、簡単に工事の概要について説明したいと思います。

当工事は、位置的に出雲市古志町と天神町に跨り、塩冶赤川に架かる『天神北橋』の橋梁下部工事でした。すぐ近くには、神戸川が流れ東西にはJRの山陰本線が通り、北側に田畑・南側に住宅地という至って静穏な田園地帯です。

ここで、課題となったのが近隣住宅への騒音・振動・粉塵と鋼矢板の圧入・引抜による周辺地盤の変位でした。特に、隣接した福祉施設には寝たきり状態の方もおられ工事施工による悪影響も懸念されました。

対策として実施したまず1つ目は、発生源対策として極力低騒音・低振動な建設機械を使用することでした。音と振動はとても不快ですから、計測機器で測定しながら常にそれに注意喚起し工事を進めました。

2つ目として、民家側に防音・防塵を兼ねた防音シート張り防音壁（H=3.0m、L=110 m）を設置することでリスクの低減に繋がりました。



3つ目は、神戸川の支流で地下水位が高く、地中深く掘って橋台や護岸を築造するのに何らかの土留施設が必要であり、ここでは仮設鋼矢板（L=110 m）の圧入とH鋼材による山留工法が採用され止水効果も期待した設計でした。

ここで発生した問題点が仮設鋼矢板を引き抜く際に生じる周辺地盤の沈下（近接居住建物への悪影響）でした。解決策として一番信頼できる方法としては仮設鋼矢板を存置することでしたがコストが掛かり、より良い工法が無いか模索する毎日でした。そこで、協議のすえ採用したのが『土留部材引抜同時充填工法』でした。新技術（NETIS）にも登録された信頼のある工法で、鋼矢板を引抜きながらボーリングマシンで同時に無害な注入液を充填して地盤の変位を抑制するというものです。

結果、目立った変位も無く、無事に施工着手から無災害で工事完成に至りました。又、この塩冶赤川改修事業が早期に完成し、洪水等の災害が少しでも抑制できることを切に願います。

そして、改めて常にワンデーレスポンスで対応して頂いた発注者の皆様方、実際に自分を支えてくれた現場スタッフの皆、そして工事において理解され協力頂いた地元の皆様に感謝したいと思います。

最後に、この業界でも古株となりましたが、これからも初心に戻って『より良いもの』を造っていきたいと思います。

## 優良工事知事表彰を受賞して



(有)嘉村建設

森脇 健太

この度は、正応寺川 防災安全交付金（通常砂防）工事 第3期に於いて、優良工事知事表彰を賜り、大変光栄に思っております。

また、この工事においてご協力いただきました発注者および地元の皆様、各協力業者の皆様には心より感謝申し上げます。

本工事は、砂防事業の基幹となる本堤（砂防ダム）の建設工事でありました。この砂防ダムは稗原地区の主要施設（コミセン、幼稚園、小学校、郵便局、交番等）が集中している地帯を土石流等から守る大変重要な施設であります。そのため、施工者として責任重大であるとともに地元企業として工事を通じ、地域に貢献できる大変やり甲斐のある工事でもありました。

そして堰堤本体部は島根県では8例目、出雲県土管内では2例目となる、珍しい特殊な『INSEMダブルウォール工法』での施工でした。この工法の特徴は、一般的なダムのようにコンクリートを流し込むのではなく、現場発生土を再利用し、これを中詰めする事で堰堤ができるという特徴があります。現場周辺では幼稚園および小学校の一部を工事用道路として利用させていただいていた事もあり、極力工事用車両の往来は避けたい思いがありました。掘削した土砂搬出と新たにコンクリートを搬入する必要のない工法により、大型トラックの往来を数百台単位で削減できた事で、地元皆様の安全な生活をお守りする事ができました。

また、堰堤の中詰めを使用する現場発生土は低強度を得る必要があるため、セメント改良が必要な事に加え、現場発生土からの砒素を抑制する必要も生じました。そのため現場では①現場発生土②セメント系固化材③砒素を抑制する不溶化材④含水比調整のため水（加水）を攪拌混合したものを製作（4種混合）しなければなりません。更に現場発生土には土砂と軟岩があり、それぞれの発生土に応じた各種添加量であるため、この品質および施工管理においては非常に苦労しました。対策として移動式土質改良機を用い（4種同時混合はできないので、2種混合を2回に分け）攪拌混合する事で堰堤の核となる高品質な中詰め材を製作する事ができました。

さらにこの工事は地元皆様の関心も高く、珍しいダム工法でもあることから、一般の方々を対象とした現場見学会を開催したり、隣接する稗原小学校の皆様には堰堤や各種建設機械を題材とした写生大会で会場提供の協力をしたりと多くの方にご来場いただきました。

地元皆様や将来を担う子どもたちに建設業の魅力を微力ではありますが発信できたと自負しております。

この他にも急峻な地形及び土石流危険渓流内での作業であったため上流側流域での土石流や地形の変位を察知し作業員へ音と光で警報を知らせる装置を常設する等、安全管理においても細心の注意を払い、無事故・無災害で工事を完成させる事ができました。

最後に今回の工事は様々な難点や課題がありましたが、自分自身の力ではなく、会社全体が一丸となって『ONE TEAM』で取り組んだ結果の賜物であります。

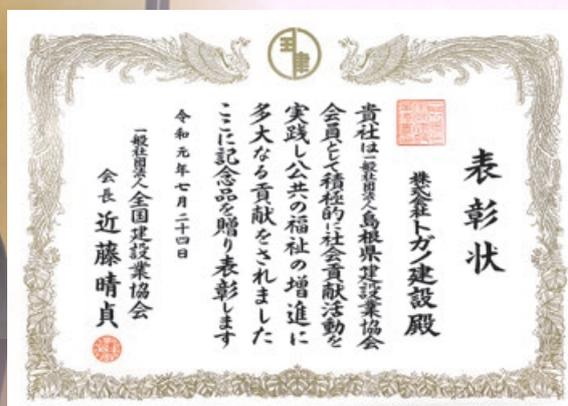
今後もこの経験を生かし、より良い工事ができるよう努力いたします。



# 令和元年度 社会貢献推進活動月間・功労者表彰



(株)トガノ建設



## スポーツを通じた地域活性化への取り組み

全国建設業協会より令和元年度 社会貢献推進活動月間・功労者表彰をいただきました。弊社は、創業者である梶野悦宏が昭和63年に『建設業関係功労者表彰』の大臣表彰を受賞したことを記念して、自らが携わってきたバレーボール競技を通して地域に恩返しをしたいと考え、平成元年から25年間『出雲地区家庭婦人バレーボール大会』を主催し、地域住民の健康増進とコミュニケーションの場を提供させていただいておりました。その歴史の中で、創業50周年時にはバレーボールの最高峰Vリーグに所属するパナソニックパンサーズを招き高校生・家庭婦人・市内小中学生への実技指導を行っています。60周年では日本プロサッカーリーグ加盟クラブ、ガイナレ鳥取のクラブスポンサー契約を行い、「トガノ建設スペシャルマッチ」を開催し、地元高松地区の浜山フットボールクラブ様を招待し、実技指導やプロの試合観戦を行い、プロのレベルを体感してもらいました。



バレーボール大会は第25回大会で一区切りをつけさせて頂き、現在では、出雲地区の小中学生を対象としたジュニアゴルフ教室を開催し、地元在住のプロゴルファーから直接指導を受けています。また親子ペアでコースを回る競技の部では、島根県ゴルフ協会ジュニア育成委員によるマナー指導を行うなど、青少年の健全育成を主目的にスポーツマンとしての振る舞いや礼儀、その他望ましい資質を子供たちに教えると共に、親子が共に楽しめるスポーツとなるようジュニアゴルフの競技人口拡大にも努めています。

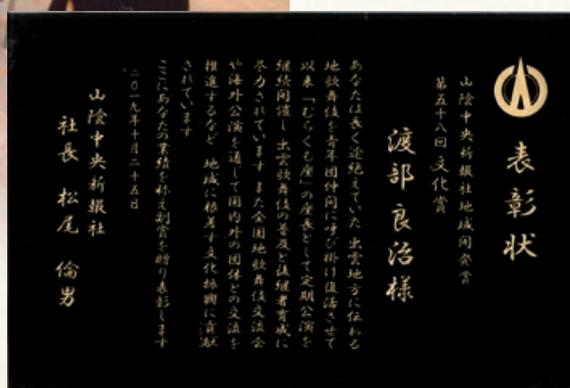
この30年間沢山の方に、お世話になって地域社会への貢献活動をさせていただいておりますが、これからの未来を担う子供たちが夢を持てるような活動、建設業界のイメージアップに寄与できることを、ひとつずつやらせて頂きたいと考えています。

最後になりますが、令和2年度のジュニアゴルフ教室は5月30日に開催します。興味のある方は、お問合せください。

# 山陰中央新報社 地域開発賞文化賞受賞



この会報の表紙デザインを長年お願いしております、出雲歌舞伎「むらくも座」座長渡部良治様が、この度山陰中央新報社地域開発賞文化賞を受賞されましたので、紹介させていただきます。



## 受賞理由

### ・出雲歌舞伎の復活と後継者の育成

歌舞伎の始祖出雲阿国誕生の地と云われ、戦前戦後を通じ盛んに伝承されながらも昭和35年の上演を最後に途絶えた出雲歌舞伎の復活を目的に、昭和50年青年団員15人で「出雲歌舞伎むらくも座」を結成、広島出身の歌舞伎役者嵐美里（本名福田<sup>かずいち</sup>）の後継者である嵐美昇（田部繁敏）の門戸を叩き、以来44年間組織運営、脚本、演出、美術、役者として毎年定期公演を行い、43演目を復活上演し保存伝承に努める傍ら、歌舞伎フェスティバルによる交流公演、国民文化祭、ポルトガルリスボン万博、イタリアナポリ・ベリーニ歌劇場出演、外国人青年への歌舞伎体験や、こども歌舞伎指導と後継者育成を行っている。

また、平成14年7月、島根県内で歌舞伎を伝承する雲南市掛合町の「松笠歌舞伎保存会」と「出雲歌舞伎むらくも座」による「島根県地歌舞伎連合会」を結成し、歌舞伎の出張指導、相互支援や交流公演を行い出雲歌舞伎の普及につとめている。

### ・地域文化の振興

平成4年9月、出雲神楽、和太鼓、歌舞伎、民謡、舞踊など町内38の文化団体618人による「佐田町文化協会」を設立し、平成7年4月より8期24年間会長をつとめ、「スサノオの里芸能大会」「こども芸能大会」「こども神楽大会」「スサノオの里スーパー神楽」などの発表会を開催するほか、国民文化祭出演、安来節どじょう掬い銭太鼓によるトルコイスタンブール公演を行うなど伝統芸能の保存伝承に尽力している。

### ・広域文化団体の組織化

また、平成28年4月、出雲市内の文化団体など、会員5043人による「出雲市文化団体連合会」を結成し、伝統芸能と創作芸能による地域間交流公演の「出雲神在月市民芸術文化の祭典」を継続開催するなど広域的連帯による発表活動を行っている。



日本振袖始・むらくも座

## 主な役職と受賞歴

- 昭和50年1月 「出雲歌舞伎むらくも座」を旗揚げし、座長をつとめ今日に至る。  
 平成4年9月 「佐田町文化協会」を設立、平成7年4月より8期24年間会長をつとめ現在顧問。
- 平成14年7月 「島根県地歌舞伎連合会」を設立し、会長をつとめ現在に至る。  
 平成16年4月より 「NPO法人スサノオの風」理事長、28年より理事をつとめ現在に至る。  
 平成17年4月より 「島根県文化団体連合会」理事をつとめ現在に至る。  
 平成25年4月より 「公益財団法人出雲芸術文化財団」理事をつとめ現在に至る。  
 平成26年4月より 「出雲市生涯学習委員会（社会教育）」委員をつとめ現在に至る。  
 平成26年4月より 「出雲阿国顕彰会」副会長をつとめ現在に至る。  
 平成28年4月 「出雲市文化団体連合会」を設立し3年間会長をつとめ現在顧問。  
 平成28年4月より 「出雲総合芸術文化祭事業計画検討委員会」副委員長。
- 平成18年3月 「出雲市民文化賞 文化活動分野表彰」受賞  
 （文化活動を通じた活性化に功績）
- 平成20年11月 「島根県教育功労者表彰」受賞（文化振興に従事、教育の充実発展に尽力）  
 平成22年3月 「出雲市長表彰」受賞  
 （出雲歌舞伎の復活継承、公演、青少年の健全育成に寄与）
- 平成27年11月 「島根県知事功労者表彰」受賞（出雲歌舞伎を通じ社会教育の推進に尽力）



源平咲分牡丹重忠館の段・むらくも座

## 年男として



今岡工業(株)

今岡 余一良

謹んで新春をお祝い申し上げます。

令和二年、会員の皆様にはお揃いで健やかな新年をお迎えのことと思います。

本年、私は六度目の子年生まれの年男であります。いまさら私の年齢で年男の抱負というより私がこの建設事業に従事して四十五年になります。この間に経験し感じた事を述べたいと思います。

昭和、平成、令和と建設業界も随分様変わりしてまいりました。昭和三十、四十、五十年代と高度経済成長、社会資本の整備も進展し建設業界も成長いたしました。

そして平成の時代に入りバブルがはじけ日本経済は急速に悪化し、建設業も公共事業の減少により建設業界をとりまく環境は大きく変化し、誠にきびしい時代に入りました。その影響を受け残念なことに業界としても過去にない苦しい経験をすることになりました。

しかし人間の力は本当に不思議なものです。

今も労働力、働き方改革など過去にない多くの問題をかかえ厳しい環境ではあるが、会員同志が手をたずさえ力を合わせ前に進むことが出来ているのです。

自分の信ずる道を貫く精神と、会員をはじめ多くの皆様方の支えとご協力があって、今日の建設業界があると信じています。

近年、全国的に大きな自然災害が発生し、多数の住民が亡くなり多くの方が被災し苦しんでいます。地域住民の安全安心と災害防止の観点から社会資本の整備、公共事業は必要不可欠であり今後期待されているところであります。

災害はいつどこで発生するか分かりません。

私共建設業界も、社会から本当に必要とされる求められる業界としてどんな災害が発生してもそれに適宜対応できる体制を調べておく必要があります。私も健康に留意し、これからは微力ではありますが会員の皆様方と共に業界の成長発展に尽力してまいりたいと思います。

最後に会員企業の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り致します。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

## 年男の抱負



(有)山崎組

山崎 育男

新年あけましておめでとうございます。

平成から令和に変わり初めての新年、十二支最初の鼠年に4回目の年男となり例年よりも新鮮な気持ちで新年を迎えるとともに、気持ちはまだまだアスリートのつもりではいるものの多々体力の衰えを感じる48歳をむかえる年となりました。

約30年前にこの業界に入り今日まで長い低迷期が続き、業者数が半減していく中、現場作業員、現場管理者、営業職、経営者と先輩方、青年部の皆さん、社員、地域の方々などたくさんの方と本当にいいお付き合い、指導を頂いたおかげをもち、今日を迎えることができたことに改めて感謝申し上げます。

個人的にも22歳で結婚し鼠は子だくさんのとおり5人の子供を授かり、5番目の息子が今年度高校卒業し子育てが一段落するとともに、昨年には初孫が生まれお爺さんとなり、令和とともに人生の第二ステージが始まりました。人生の折り返しをいつ通過しているのかと時折思うと寂しくなりますが、これからも夢をもち、夢に向かって頑張りたいと思います。

今年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。団塊の世代の方々が64年の東京オリンピックの後高度成長の主役になられたよう、次なるステージは我々第二次ベビーブームの世代が新しい風を吹かせないといけない時期が来ると思いますし、しなくてはならないと思います。これから島根県の人口減少が進み、建設業の担い手不足が進んでいく中、我々の子供世代にとって夢のある業界となれるよう、次なる世代で様々な取り組みを行っていただければと思います。

最後に、出雲地区建設業協会の益々のご発展、会員企業の皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

本年もよろしく願いいたします。

## 年男の抱負



(株)フクダ

門脇 徹

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、年号が「平成」から「令和」に代わった年であり、5月の改元時には新年号は何になるか、食い入るようにテレビを見ていたのを思い出します。またスポーツではラグビーワールドカップ日本開催で盛り上がった年になり、ラグビーにあまり詳しくなかった私も一緒に応援して楽しみました。また、今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されるということで、今から寝不足の日々が続くのではないかと心配しております。

さて、「令和」が始まって最初の正月を迎え、私は今年36歳になります。現場管理者として弊社に入社してから16年が経ち、前回の年男だった24歳の頃と比べれば、多くの人のご支援ご協力を賜り技術者として成長できたと思っております。当時はi-constructionの三本柱の1つ「ICT技術の全面的な活用」の一環で、トータルステーション（TS）等を用いた出来形管理やローラーの転圧管理等が導入され、生産効率の向上や技術者不足への対応に向けて大きく動き出した頃だったと思います。それから直ぐに、建設機械のマシンガイダンス（MG）マシンコントロール（MC）が導入、それに伴い無人航空機（UAV：ドローン）を用いた測量・出来形管理等が導入され、ますます作業効率及び安全性が向上し、より高い精度の施工ができるようになりました。また、3Dモデルを活用したCIMの取り組みも盛んになり、現在私が携わっている山陰道建設工事でも、CIM活用工事として橋台の3Dモデルを作成・活用し現場を進めています。3Dモデルにより、2Dではイメージや確認が困難だった複雑な勾配を併せ持つ橋台の座標・高さ確認や鉄筋同士の干渉も容易にチェックすることができ、3Dモデルを利用し打ち合わせを行うことにより、誰もが理解しやすい作業環境へとなっています。

しかし、便利になった反面で問題点もあるのが現実です。新しい技術が導入されるということは、それを使いこなしていかなければ意味がなく、ベテランの技術者になればなるほどその行為が億劫になり、ついていくのが困難になっていきます。そこで、若手技術者の出番となるのですが、ご存じの通り現在建設業界は若手技術者が不足しています。働き方改革等により、建設業が若い人に興味を持ってもらえる業種となることを期待するとともに、私自身としては従事者として建設業の魅力を様々な場所でアピールできたらと思っております。そして、その若手技術者に負けないように新しい技術にも積極的に挑戦し、一緒に切磋琢磨して建設業を盛り上げていきたいと思っております。

最後に、会員企業の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。

## 第56回 全国建設業労働災害防止大会に参加して

安全委員会

中尾 一男〔株内藤組〕



私たち安全委員は、令和元年9月26日・27日の両日、福岡市で開催された「第56回全国建設業労働災害防止大会」に参加しました。彼岸を過ぎたとはいえ梅雨のような蒸し暑い二日間でした。初日の総合集会は大相撲九州場所が開催される福岡国際センターにおいての開催でした。開会宣言に続き労働災害で亡くなられた方々への黙祷を捧げた後、建設業労働災害防止協会 銭高一善会長の挨拶、厚生労働大臣はじめ、来賓の方々の挨拶、大会実行委員長による歓迎の挨拶へと続きました。一連の挨拶に続き、安全衛生表彰・顕彰基金による顕彰、「安全の誓い」へと順次執り行われました。この度の安全衛生表彰では、私も関係皆様のご推薦を賜り「功績賞」として立派な表彰盾を拝受いたしまして大変にありがとうございました。

開会式典の後は厚生労働省の講師様の講演に続き、400年の歴史を持つ国の指定重要無形民俗文化財である「小倉祇園太鼓」のアトラクションへと続きました。この太鼓の音には天下泰平、国土安泰、五穀豊穡、商売繁盛、家内安全を願う意味が込められているとのいわれがあるのですが、何よりもこの日の勇壮な太鼓の音は全国の建設業界の無事故無災害を祈念しているかのようで、背筋の伸びる思いで聞き入り、改めて、平素から分会長の言葉にある「安全は出雲から」を合言葉に安全衛生活動に取り組み、より一層の努力をしたいと思ったところです。

また、今回の特別講演は「脳とAIの未来」と題し、東京大学医学部教授の池谷裕二氏の講演を聞きました。今後、人工知能によって我々の生活はどのように変わるのか、人工知能がもたらす未来の世界で「人らしさ」とは何か？とかの講話のなかから未来における安全管理がどうあるべきかを考えさせられました。

最後に、全国大会から帰雲した翌10月には、異常気象による大規模災害が相次ぎました。大規模災害発生の度に「想定外」と言う言葉をよく耳にする昨今です。これが「想定内」であれば被害のほうは最小限にとどめる事が可能ではなかったでしょうか。建設現場においても、何事も想定内としてリスクアセスメントの実施に取り組んで行きたいと願います。

(大会スローガン)

「知恵を絞ってリスクを低減  
感性高めて摘み取る危険  
意識高めて守る安全」  
ご安全に!!



## 経営研修会 2019

令和元年度の「経営研修会」を下記のとおり開催しました。



開催日:令和元年11月19日(火)

会 場:出雲建設会館

演 題:働き方改革と使いやすい『助成金』活用術

講 師:佐藤社会保険労務士事務所

社会保険労務士 佐藤 良一 様 (株)佐藤工務店

当日は、働き方改革の概要・労働時間の見直し・助成金の活用術などについて、分かり易く説明をしていただきました。

講演会内容のうち「残業時間の上限規制」について、佐藤先生に改めて執筆していただきましたので参考にしてください。

### 建設業における残業時間の上限規制について

佐藤社会保険労務士事務所

社会保険労務士

佐藤 良一 (株)佐藤工務店



新年あけましておめでとうございます。

皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年4月から「働き方改革」がスタートし、今後どのように対応すれば良いのだろうか?と不安な経営者の方も多いのではないのでしょうか。70年ぶりの大改革として登場した「働き方改革関連法」により「年5日の年次有給休暇の付与義務」や「同一労働同一賃金」の導入など労働基準法をはじめ多くの労働法規の改正がなされました。

建設業においては他産業に比べ休日の少なさや長時間労働の慢性化など今後の改善点も多く、この法案によって建設業にはどのような変化が求められるのでしょうか。

今回の法案での特筆すべき点は、建設業に対しても残業時間に上限を設ける時間外労働の

罰則付上限規制が適用されることです。

これまで36協定（サブロク協定）で定める時間外労働の上限（限度時間）については法律では定められておらず厚生労働大臣が延長の限度に関する基準（限度基準）を定めていました。ここでは36協定で締結できる時間外労働の上限を原則月45時間、年360時間以内とし、これまで罰則による強制力がありませんでした。臨時的な特別な事情がある場合に労使で合意し「特別条項付の36協定」を締結すれば限度時間を超えて上限なく時間外労働を行わせることが可能となっていました。

今回の法改正により時間外労働の上限が罰則付きで法律に規定されました。原則として月45時間、年360時間を上限とし臨時的な特別な事情があつて労使で合意（特別条項付の36協定）する場合でも以下を守らなければならないことになりました。

- ・時間外労働が年720時間以内
- ・時間外労働と休日労働の合計が月100時間未満
- ・時間外労働と休日労働の合計が2か月から6か月の複数月平均で月80時間以内
- ・時間外労働が月45時間を超えることができるのは年6か月まで

なお、上限規制には適用を猶予・除外する事業、業務があります。建設業（建設事業）については法施行期日の5年後（2024年4月1日）から上限規制が適用となります。

ただし、災害の復旧・復興の事業に関しては月100時間未満、2～6か月平均80時間以内の要件は適用されません。

この他2023年4月からは中小企業事業主にも月60時間超の時間外労働に対しては割増賃金率を50%以上にしなければならないなど長時間労働に対する規制が厳しくなります。従って、長時間労働の是正には社内の業務効率化だけでなく、取引環境の改善も重要であると思われまふ。労働時間等設定改善法で事業主の責務として短納期発注や発注の頻繁な変更を行わないよう配慮するよう努めることと規定されました。建設業においては発注者の理解や協力を得ながら適正な工期の設定や労働時間の段階的な短縮に向けた取り組みを推進することが重要となります。

協会の会員企業の皆様には今後時間外労働の上限規制等について充分ご理解いただき、従業員の方が安心して働ける労働環境を整備していきましょう。

問 い 合 せ 先

**佐藤社会保険労務士事務所**

出雲市塩冶町1287-7

TEL 0853-23-7036

E-mail sato-sr@star.ocn.ne.jp

## インターンシップ事業に協力しています

当出雲地区建設業協会では、毎年、東部高等技術校、出雲農林高等学校、出雲工業高等学校の生徒をインターンシップ（現場実習）事業として受け入れております。インターンシップの目的は、産業現場で勤労体験をすることにより、学習の進化及び個性の伸長と進路意識の高揚が図られると共に、協調性を養い、地域産業の認識を深めることにあります。

しかしながら、近年、建設産業への就職を希望する学生の減少を耳にしており、建設産業の果たす役割や正確な産業界の姿を伝えること、ものづくりの喜びや高度な技術力を身近に体験して頂き、併せて進路意識の高揚を図り、建設産業に対する理解を深め、関心を高めていただくことも我々の役目であると考えます。

### インターンシップ体験談

#### インターンシップを体験して

島根県立東部高等技術校

住環境・土木科2年 **藤山 光浩**



今回インターンシップということで、6月3日から6月8日までの5日間、株式会社中筋組様にお世話になりました。現場での作業をさせていただき、技術校の実習だけでは体験できない大規模な工事を見ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

私自身、社会人としての経験はあるものの土木業界は全くの未経験で、右も左も分からない状況でしたが、社員の皆様をはじめ、現場の方たちに丁寧に指導いただきました。普段目にするのことがない、工事現場の内部を知ることができ、貴重な体験が出来たと感じています。

また、事務所で、工事に必要な書類についてもご指導いただきました。どのような書類が何のために必要なのか、など実務に関連付けてお話をさせていただき、土木工事に関してより理解が深まったように感じました。

就職は土木業界を希望しておりますので、現場での作業、座学ともに大変参考になる内容ばかりでした。

今回のインターンシップは大変貴重な体験をさせていただきました、学んだことを活かせるように、今後努力を怠らないようにしていきたいと考えております。

5日間たくさんの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

## ■ インターンシップを体験して

島根県立出雲工業高等学校

建築科2年 糸賀 香



インターンシップをとおして、企業見学等だけでは気づけなかったことを学びました。それは、社会に出るためには自分にはまだ足りないものがたくさんあるということです。

その一つがコミュニケーション能力です。現場では一つの建築物を完成させるために、いくつもの役割に分かれ、会社の枠を超えて作業が行われていました。協力して仕事を進めなくてはならないことはイメージしてはいましたが、一つの会社で作業をしていると思っていました。そのような現場を監督したり、進み具合や、安全性に気を配りながら作業をしたりするには想像以上に協調性、観察力、判断力が必要とされると感じました。建築の現場で必要とされるコミュニケーション能力は私が普段の部活やクラスで発揮している能力とは全く違うものでした。

二つ目は専門知識です。現場の作業のほとんどが、普段学習していることと一致しており、私が学んでいることは仕事に直結する大切な知識なのだとということがわかりました。しかしその一方でまだまだ知らないことがあり、今後学ぶ専門知識をしっかり身につけ、自分の将来に活かせるように努力しなければならないと今は考えるようになりました。

残された高校生活はまだあるなどと考えず、自分に不足している力をいっそう磨いていかなければならないと思います。



働くということは様々な苦勞があると感じましたが、協力して一つの目標に向かう姿が楽しそうでもあり、建築業への興味が一層深まりました。卒業後は建築業につくという曖昧な希望でしたが、数ある業種の中から自分にできる仕事は何かをきちんと探そうと思います。そして

普段の学校生活で学んでいることを大切に、働く人々の頼もしい姿に自分がやがて近づいていけるよう努力をしていきます。

## ■ インターンシップを終えて



島根県立出雲農林高等学校

環境科学科 2年 **廣國 侖人**

私はインターンシップで山陰建設工業(株)へ行き、多くのことを学ぶことができました。

実習一日目は、高松小学校の近くの高瀬川沿いの道路舗装の現場へ行き見学させていただきました。見学の前に道路の構造等を丁寧に教えていただいたから現場に行きました。現場に着くとすでに舗装工事が行われており、見たこともない重機で地面のアスファルトを削っておられました。アスファルトを削っていた機械は「切削機」といって、アスファルトを粉々に砕く機械で、刃にはダイヤモンドコーティングがされており、刃が脆くなると交換されます。その他にもバックホウやロードローラー、アスファルトフィニッシャーなどの機械も動いていました。アスファルトの剥がれた地盤をトンボで平らにならす作業をしておられる作業員さんを見て一見簡単そうに見えたのですが、いざ体験してみるとかなり難しく、これを簡単そうにしておられる現場の人はすごいなと思いました。また、スムーズに仕事が進んでいき、とても早くキレイに作業をされている姿はとてまかつこいいなと思いました。

二日目は、山建プラント(株)に行き、プラントの構造や仕組みについて学びました。また実際にアスファルトを作り試験なども行い密度や強度を調べたりする貴重な体験もさせていただきました。特に印象に残ったのは透水性舗装の実験用のサンプルに水をかけて下から水が出てくるというものでした。「すごい！」と思いました但实际上にバイパスでも使われているそうです。また、石材の入っていないアスファルトを触らせてもらいました。感触や伸縮性はとてもゴムそっくりでした。夏は伸び、冬は縮んで道路が壊れにくくなるそうです。コンクリートや剥いだアスファルトなどをリサイクルして再利用して使っておられるというお話を聞き経済的にも環境にも配慮されていると思いました。

三日目は、古志 86 号線外道路と新しいごみ処理場の見学、ドローンの操縦体験をさせていただきました。工事の概要や説明を聞きながら道を進んでいくと新しいごみ処理場の建設が行われており、大きなクレーンも5台くらいいました。また、ドローンの操縦体験では、カメラ機能や操縦を楽しく学ぶことができました。

四日目は、湖陵町の橋の近くで測量などを行いました。電子レベルを使って測量を行いました。BM 測量を行い、レベルとポールの間に入ると接続が途絶えるので注意しながら作業しました。また、パソコンで CAD の仕組みなどを教えていただいたり高速道路をドライブさせていただきました。道路について楽しく会話しながら学べて良かったです。山陰建設工業(株)の人はみんな優しく、一日目から四日目までずっと楽しく学ぶ事が出来ました。このインターンシップで学んだことや出来事、経験は忘れずに必ず将来に役立てたいと思います。貴重な経験をさせていただいた山陰建設工業(株)、山建プラント(株)の人には本当に感謝しかありません。有意義な四日間をありがとうございました。

## ■ 土木の日 記念イベント 2019 ■

第5回目となる「土木の日」記念イベントを、出雲河川事務所・出雲県土整備事務所・出雲市・しまね建設産業イメージアップ女子会と協力し、11月16日（土）に斐伊川放水路周辺を会場に開催しました。

当協会では、パネル展示・建設機械の展示と搭乗体験・ミニチュア重機で遊ぼう・ものづくり（木工細工）コーナー・ドボク模型・ドローンの展示と飛行実演・たこ焼き出店などの多彩な催しを、青年部会の皆様の多大なご協力のもと実施いたしました。

当日は、朝の内に小雨がぱらついたことと、時節がら他のイベントと日程が重複したこともあり、来場者は約230人と例年より少なめではありましたが、ものづくりコーナーや建設機械のコーナーには多くの子供たちが集まり夢中になっていました。

この子供たちが、少しでも建設業に興味を持ってくれたら嬉しいことです。





# 令和元年を振り返って



## 編集後記

昨年は5月1日から元号が「令和」になりました。新元号の由来は万葉集巻五に収録された“梅の花の歌”の序文からだそうです。日本の「和」という国柄を私たちの次の世代に繋ぐという思いが込められた言葉です。海外では「令和」はビューティフルハーモニー（美しい調和）と解釈されているようです。

令和となった今、私たちの生活は十分過ぎるほど便利になりました。その発展を支えたひとつは土木工事（シビルエンジニアリングワーク）ではないでしょうか。シビルとは文明という意味と共に市民という意味を併せ持った言葉です。つまり土木工事というのは、私たちの社会が文明社会になるための工事ではなく、秩序ある暮らしを営む市民のためになる工事でなければなりません。

土木建築技術の高度な発展によって、利便性の高い社会が構築されました。その反面、振動・騒音のようなローカルな問題から地球温暖化のような世界的な問題までさまざまな環境問題が顕在化してきました。単に短期的な利便性を求めるだけでは安全で安心な社会を維持することができなくなってきています。そこで建設業には求められる3つの使命があると思われる。

1. 災害から市民生活を守る
2. 環境に優しい安全で安心なまちづくり
3. 既存インフラの点検・補修による維持

我々はこれらの役割を果たすことで、未来の世代に安心して引き継ぐことができる環境と調和した持続可能な発展をめざしていきましょう。



一般社団法人

## 島根県出雲地区建設業協会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)